

## 地域の話題 石狩市

市街地型・郊外型、双方の  
サイクリストに安全快適な走行環境を

道内の自治体ではじめて「自転車活用推進計画」を策定した石狩市。サイクルルートとなる道路上の矢羽根や多国語表記の案内表示、休憩ポイントの整備など、インバウンドを含めたサイクルツーリズムの促進と、事故のない走行環境の整備を進めている。現状の課題や今後の展望について、企画経済部企画課の上窪健一課長にお話を伺った。



石狩市企画経済部 企画課  
交通担当 課長  
上窪 健一 氏

日本海を眺めながら長距離を走行できるのは、石狩市ならではの魅力だ

### ——今年3月に策定された「自転車活用推進計画」 には、どのような背景があったのでしょうか。

大都市札幌に隣接している石狩市は、日本海、石狩川、暑寒別山系、丘陵地などの自然環境に恵まれ、郊外ではサイクリストが走行する光景がよく見られます。近年はアジア圏の富裕層を中心に、インバウンドのサイクルツーリストも急増中です。また一方で、市街地には自転車通学をしている中学生も多くいらっしゃいます。郊外型、市街地型の双方で多種多様な世代が自転車を利用していますので、皆さんに快適で安全な走行環境を提供したいということから、この計画が検討されてきました。

### ——策定にあたって組織した「石狩市自転車活用推進協議会」では、どのような議題が上がりましたか。

やはり一番は自転車が安全快適に移動できるようにするためには、どのような環境整備が必要なのかというこ

とでした。自転車事故を減らすために、郊外型サイクリストに向けては路面上に矢羽根で走行コースの案内をしたり(写真1)、はまなすの丘公園ヴィジターセンターや道の駅『あいろーど厚田』などの休憩ポイントに貸し出し工具を用意するなどの施策がすでにスタートしています。インバウンドのサイクリストに向けては、多国語表記の案内表示を設置していくことも予定しています。



写真1 推奨ルートには、この夏から矢羽根の設置が始まっている



写真2 道の駅石狩『あいりーど厚田』に設置されているサイクルラック



写真3 自慢の“望来ビュー”は、石狩湾を一望できるフォトスポット

また、市街地においては自転車事故も発生しておりますので、交通安全ルールやヘルメット着用についての啓発を小学生から強化しようと考えております。当計画での取り組みとして、今年の春から小学校、中学校にてプロライダーによる交通安全教室を実施しております。

#### ——市民から意見や要望などありましたか。

駐輪スペースはしっかり考えて欲しいというご意見などを頂いています。市街地においては公共施設への駐輪場の増強を、郊外では道の駅や観光施設、公衆トイレなどにサイクルラックを増設する予定です(写真2)。

また、サイクリングルート周辺にある飲食店やコンビニエンスストアなどとも連携して、ラックを設置していきたいと考えています。道の駅には自転車を積んできたクルマ向けの駐車スペース「シックスホイールパーキング」も50台分用意しています。まだあまり知られていないのか利用が少ないので、こちらも周知に力を入れたいところです。

#### ——2017年には市街地から厚田、浜益まで網羅したサイクリングMAPを制作されていましたね。

初級から中・上・最上級、超人的な200キロ越えコース、歴史探索コースなど、全12パターンの推奨ルートを、景観ポイント、休憩スポットや飲食店、トイレなどの情報と共に提案しています。MAPは市役所で配布していますし、市のHPからもダウンロードが可能です。

個人的なおすすめは石狩市役所発着の中級コースでしょうか。日本海沿岸を北上し、はまなすの丘公園や石狩灯台などの観光スポットを経て、石狩湾を一望でき

る絶景の“望来ビュー”が最高です(写真3)。土日であれば市役所の駐車場も比較的空いておりますので、ご自由にお使い頂ければと思います。

#### ——石狩市だけではなく、隣接する市町村との連携も進んでいますね。

昨年、新篠津村・増毛町・当別町・石狩市の4市町村で連携してサイクルツーリズムを推進していこうと、「石狩北部・増毛サイクルツーリズム推進協議会」を組織しました。多国語表記の案内表示などを協力して進めていくほか、今年度は4市町村内で撮影した自転車のある風景フォトコンテストを実施しました。入賞作品は道の駅を巡回展示し、普段自転車に乗っていない方にも広くご覧頂けたかと思います。来年度も実施予定ですので、ぜひ皆さんにご参加頂きたいですね。

#### ——今後の展望についてお聞かせください。

北海道は市街地を抜けると信号が少なく交通量も少ない、一方で舗装率が高いという環境にあり、サイクルツーリズムには高いポテンシャルを有しています。道内では道庁のほか弊社だけが自転車活用推進計画を策定しておりますが、十勝や後志、渡島などサイクルツーリズムが盛んで知名度の高い自治体も数多くありますので、お互いに情報共有など連携を図りながら、石狩ならではの魅力、楽しみ方を発信していきたいと思っています。

また、それらを自治体が主導するのではなく、民間の事業者や団体とも連携することで持続可能性が高まります。そこは今後の検討課題と考えています。